白銀南小

「わかった！できた！役立った！」が実感できる授業づくり

～問題解決的な学習の授業実践を通して～

（３年計画の１年次）

校長　　越　戸　　順　子

１　研究主題について

本校の児童は、明るく素直で、与えられた課題に対してまじめに取り組む。しかし、自分の力を高めようと意欲をもって自ら進んで学習に取り組むという点では、消極的な姿が見られる。このような実態から、本校では、教育目標として「豊かな心をもち、主体的に活動する子」、努力目標として「進んで学習する子」を掲げ、自ら課題を見つけ、問題解決に向けて意欲的に取り組む児童の育成を目指している。

校内研究では、平成２８年度以降、国語科を中心に、書く力や読む力の育成に取り組んだ。また、令和元年度から令和３年度にかけては、児童がより主体的に学習に取り組み、思考力・判断力・表現力を伸ばしていくことを目標に、国語科における「問題解決的な学習」を軸として、研究を進めてきた。

その結果、①児童間の問いの共有、②自分の考えを積極的に発信する児童の増加、③学習の振り返りによる次時への学習意欲の向上、という３つの研究成果が得られた。一方、研究課題として、「相手の意見に自分の考えをつなげて話し合ったり、疑問点について問い返しをしたりすること。」「自分の変容を見取ったり、友達の考えを取り入れたりする多面的な振り返りをすること。」が挙げられる。

そこで、前年度までの成果と課題をふまえ、今年度は「問いをもたせる学習課題の設定」と「話合い活動の充実」の２つの取組を継続的に検証しつつ、「学習を振り返り、学ぶ意欲を高める」という取組についてもさらに研究を深めたいと考える。「友達の意見を受けて、自分の考えを発信すること」「自分の考えと友達の考えをもとにした上で意見を深めるような話合いを行うこと」「問いに対する振り返りを土台とし、自分自身の考えや正解にとらわれない多面的な振り返りを行うこと」などによって、児童の学ぶ意欲を高められると考え、本研究主題を設定した。

２　研究のねらい

問題解決に向けて意欲的に取り組むための効果的な指導のあり方を、授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

(1) 児童一人一人に問いをもたせる学習課題を設定し、話合い活動を充実させることによって、児童が問題解決に向かうことができる。

(2) 「わかった！できた！役立った！」が実感できる振り返りを充実させることによって、児童の学ぶ意欲を高めることができる。

４　研究内容

(1) 学習課題の工夫（一人一人に問いをもたせる課題設定・提示の仕方）

(2) 課題解決に向けての話合いの工夫

(3) 振り返りを生かした学びの工夫（変容を見取り、次の学びに生かす）

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者等	全体会等
４	１３		全体会（共通理解）
６	１	小・中学校ジョイントスクール推進事業 （白銀南中学校の授業を参観）	分科会・全体会 （学習・生活・行事・特別支援）
６	２７	第１回授業研究 算数科（中学年） ４年３組 授業者 中園 由香 教諭	要請訪問 研究協議会（グループ・全体会）
１１	２	第２回授業研究 国語科（低学年） １年２組 授業者 中野 茉由 教諭	研究協議会（グループ・全体会）
１１	９	小・中学校ジョイントスクール推進事業 （白銀南小学校で授業を実施）	分科会・全体会 （学習・生活・行事・特別支援）
１１	２４	第３回授業研究 算数科（高学年） ５年２組 授業者 植村 一也 教諭	研究協議会（グループ・全体会）
１	１２		全体会（成果と課題）
２	１		全体会（研修のまとめ、 来年度の方向性・計画）
２	１５		全体会 （来年度の研修について）

(2) 一般研修

月	日	内容等
４	２７	子ども理解・生徒指導　情報交換
５	２７	図画工作　描画・版画の効果的な指導法について
６	１０	幼保こ小連携推進事業　授業公開（１学年）
８	２３	ＩＣＴ機器（クロムブック）の活用方法について
９	２８	特別支援教育について

６　研究の成果

(1) 授業の導入を工夫し、前時との違いや思考のずれを明確にすることで、それぞれの児童が問題意識をもち、問題解決に向かおうとする意欲を高めることができた。

(2) 話合い活動にかける時間を十分に確保したり、話し合うときの児童の立場を明確に示したりすることで、友達の考えを認め、意見を積極的に発表しようとする意欲を高めることができた。

(3) 学習の達成度を可視化したり、学習の振り返りを行ったりすることで、児童と教師の両者が学習の理解度を細かに把握することができた。

７　研究の課題

(1) 話す・聞く力の個人差により、話合い活動に積極的に取り組むことが難しい児童がいる。どの児童でも活発に意見交流ができるよう、教師の発問や話合いの形態をさらに工夫する必要がある。

(2) 話合いの中で、友達の考えを取り入れてよりよい考えにすることが難しい。考えを深める活動を日常化し、児童が主体的な話合いを行うことができるよう工夫する必要がある。

(3) 学習後に、意見の変容や学習の中での気付きについて振り返る児童が少ない。正解したことや達成したことだけでなく、学習過程においても多面的に振り返り、次の学びに生かすことができるような手立てを講じる必要がある。

（記入者　　佐藤　元）